祝！第 50 回

特集 弘前城 雪燈籠まつり

弘前城雪燈籠まつりは、長い北国の冬を楽しく演出するために市民手作りで行われるまつりで、昭和 52 年から始まりました。このたび、令和８年２月の開催で第 50 回を迎えます。たくさんの人たちに支えられてきた弘前城雪燈籠まつりのこれまでの歴史をたどります。

■問い合わせ先　観光課（☎ 40-0236）

記念すべき第１回！

1977年（昭和 52 年）

第１回の大雪像のテーマは「弘前城天守」でした。過去に計６回制作された、弘前市のシンボルです。弘前城天守は第 50 回の大雪像テーマでもあり、令和８年には曳戻しによる天守の移動が予定されています。

1987年

第 11 回（昭和 62 年）

当時のまつりの人気アトラクションと言えば「馬そり」です。大きな馬が力強くそりを引く様子は、たくさんの人に愛されていて、特に子どもたちは、寒い中でも元気に並んで順番を待っていました。

1998年

第 22 回（平成 10 年）

外国の建物が大雪像のテーマになった年もありました。平成 10 年の大雪像はイギリスの城「ロンドン塔」でした。ほかにもインドの「タージ・マハル」やフランスの「凱旋門」などが作られています。

2010年

第 34 回（平成 22 年）

まつりを訪れた人たちが気軽に参加できる取り組みとして、北の郭での「弘前雪明かり」が始まりました。当時は弘前公園だけでなく、吉野町緑地でも同時開催し、弘前の冬を温かく彩りました。

2011年

第 35 回（平成 23 年）

弘前城築城 400 年祭の記念として、「津軽錦絵大回廊」が誕生しました。夏の風物詩である弘前ねぷたまつりの熱気と真冬の雪景色が相まって、幻想的な雰囲気を醸し出しました。

2012年

第 36 回（平成 24 年）

東日本大震災から約１年後の平成 24 年２月、宮城県や岩手県の被災者 300 人をまつりへ招待しました。復興への決意や感謝の気持ちを書いたメッセージキャンドルが印象的でした。

2023年

第 47 回（令和５年）

令和４年は新型コロナウイルス感染症の影響により、まつりが中止に。当時、制作を進めていた大雪像「旧函館区公会堂」は、翌年の令和５年に改めて制作し、まつり復活の象徴となりました。